

ロボット手術700例達成

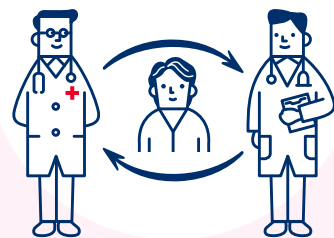


当院は2009年に総合鏡視下手術センターを開設し、婦人科や外科領域をはじめ、年間1,800件を超える鏡視下手術を行っています。

2019年3月からトレーニングを積んだ専門チームによるロボット手術を開始し、2024年6月14日にロボット手術症例が700例に達しました。

直腸がんに関しては、当院は熊本県では数少ないロボット手術を実施している施設の一つです。ロボットによる繊細な手術を行うことにより、がんの根治はもとより、直腸に密着する骨盤神経叢を繊細な操作で丁寧に温存し、直腸がん術後に懸念される排尿・性機能の保持や早期の回復が期待されます。大腸がんは早期発見、早期治療によって治る可能性が高い病気です。いつでもご紹介、ご相談ください。

2人の主治医が連携しあいながら支えています



がん診療において、当院では、5年間のフォローアップ終了後の患者さんや経口抗がん剤を用いた化学療法で状態の落ち着いた患者さんを、より患者さんの住まいに近い地域の医療機関へ積極的に紹介し、定期的なフォローを行ってもらい、再び専門的な診療が必要と判断された場合には、すぐに当院へご紹介いただくよう願っています。

がん診療は長期にわたるため、当院の医師と地域の先生方、2人の主治医が双方向に連携しあいながら一人の患者さんを支えていくものであると考えます。皆様のご協力をお願いいたします。

いつでも
どこでも

質の高いがん治療を安心して受けていただくために



第二外科部長
田中 栄治 たなか えいじ

高齢者や複数の疾患を抱えている患者さんにおいては、当院の様な急性期病院での治療の後に回復期ケアや長期ケアが必要になります。地域包括ケアシステムにおいて円滑に診療を行うためには効率的な情報伝達と連携が不可欠です。そのための取り組みのひとつとして、熊本県ではがん診療連携パス「私のカルテ」を2010年より運用しています。これは地域連携パスの一種で、がんの診療計画書です。一般的なパスは一方向で医療者が管理していますが、これは双方向であることや患者自身が保有し管理しているという特色があり、まるで小学生の頃の「連絡帳」のような役割を果たしてくれます。また、口腔ケアががん治療に伴う合併症の減少や患者のQOL向上に寄与することから、歯科医との連携も積極的に行っています。

熊本赤十字病院 熊本市東区長嶺南二丁目1-1
JAPANESE RED CROSS KUMAMOTO HOSPITAL TEL.096-384-2111

SNSでも最新情報を更新中です



webサイト



Instagram



YouTube



Facebook

●診療時間

[受付時間]

外来受付 / 8:30~11:30(9:00診療開始)

再来受付機 / 8:00~11:30

※診療科によって開始時間が遅れる場合もございますのでご了承ください。

[休診日] 土曜 / 日曜 / 祝日 / 年末年始(12月29日~1月3日)

急患については上記にかかわらず救命救急センターにて診察いたします。

発行：熊本赤十字病院 患者サポートセンター（医療連携室）

発行日：2024年9月

CROSS TIME

Japanese Red Cross Kumamoto Hospital

vol. 15
2024 Autumn



広く 深く

幅広い症状に対応できる外科専門医チーム

TEAM OF SPECIALISTS

熊本赤十字病院

患者サポートセンター（医療連携室）広報誌



広く深く 外科専門医チーム 幅広い症状に対応できる

新型コロナが5類に格下げされ街は賑わいを取り戻し、熊本は世界的な半導体企業の進出に活気づいています。世界的にはAIが様々な分野に革新をもたらし、紛争はなかなか終息せず、また歴史的な円安など、世の中は大きな変化の渦中にあります。医療の世界でもロボット手術の普及など大きな進歩がある一方で、働き方改革や診療報酬改定などは試練となることも予想されます。2023年当院外科では124例のロボット支援下手術（肺・縦隔45；胃45；大腸29；膵臓5）を行い、今年は更に増えている印象です。腎移植も昨年は29例（献腎6）と大きく伸びました。ひとえに患者さんを御紹介頂く先生方のおかげと感謝しております。通常の鏡視下手術、急性腹症や外傷の手術においてもより繊細で質の高い医療を提供できるように外科医一同精進を続けております。

現在手術室がフル稼動状態で、胆石症やヘルニアで急ぎの手術を御希望の患者さんは他院にお願いせざるを得ないこともあります。合併症のある方などはできる限り対応したいと考えておりますのでよろしくご紹介のほどお願い申し上げます。

また新しい取り組みとして手術前にお口の中を、かかりつけの歯科医の先生にしっかり診て頂き、合併症軽減を目指す医科歯科連携を強化しております。こちらも御協力よろしくお願い申し上げます。

今後もより専門性を高め、皆様方との連携を深めて患者さんの満足度の高い外科医療を一人でも多くの患者さんに提供できるよう努力して参ります。よろしく御指導の程お願い申し上げます。

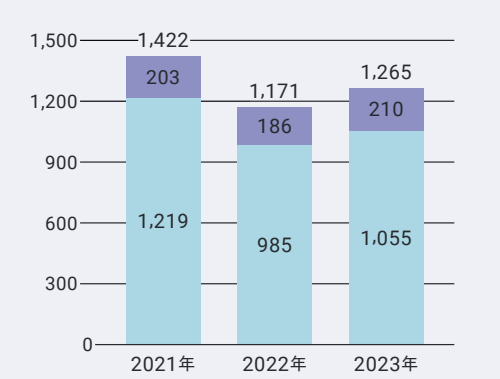
熊本赤十字病院
第一外科部長

横溝 博

よこみぞ ひろし



■外科年間手術実績



呼吸器外科

呼吸器外科部長 | 森 毅 もり たけし

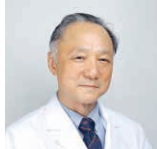
単孔式手術とロボット手術

2023年の手術総数は210件、内訳は肺癌103件、転移性肺腫瘍6件、縦隔腫瘍19件、気胸43件、臍胸12件でした。ロボット支援手術は48件。2-4cmの孔一か所から手術を行う単孔式手術を101件行いました。

▶**単孔式手術とロボット手術**…気胸、臍胸や比較的早期の肺癌治療には、最も創の小さい単孔手術をお勧めしています。縦隔腫瘍や肺癌ではロボット手術をお勧めしています。手術はそのすべてを呼吸器外科専門医、胸腔鏡安全技術認定医が担当します。ロボット手術プロクターは他病院の招請により、他院でのロボット手術の指導も行っています。

▶**今年度の取り組み**…体に負担の少ない手術として、上に述べた術式を行ってきました。2023年の総入院期間は中間値4日。最頻値4日でした。多くの方が術前1日、手術、術後2から3日の入院で退院可能でした。今後も更なる体に負担の少ない手術への改善と新しい治療法の取入れに努力してまいります。

紹介動画は
こちらから▶



上部消化管

上部消化管外科部長 | 岩崎 寛智 いわさき ひろのり

胃癌術後の高いQOL維持をめざします

日頃より熊本赤十字病院へのご理解、ご協力、誠にありがとうございます。当院では2023年に79例の胃癌手術（姑息手術、審査腹腔鏡を含む）を施行いたしました。そのうち開腹手術2例、腹腔鏡手術32例、ロボット手術45例となっており、全体の97%が低侵襲手術となっております。胃癌手術後の大きな問題点として、食事摂取量の低下、骨格筋量の低下による術後QOL低下が挙げられます。これまで、当院を含め様々な施設からの報告において、胃癌患者に対する胃切除の際、低侵襲手術の方が開腹手術に比べ術後の体重減少割合、骨格筋量低下の割合が低いとされております。当科としては上記のごとく低侵襲手術を積極的に取り入れるとともに、さらには看護師、栄養士、理学療法士の協力を得て、できる限り術前と同等程度のQOLを維持できる様に、栄養指導、リハビリテーション等を積極的にこなしております。今後も疾患の根治性はもとより、患者様のより良い術後QOL維持のために頑張っております。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



下部消化管

大腸外科部長 | 永末 裕友 ながすえ やすとも

大腸癌に対する最良の治療を提供します

当院は県内トップクラスの大腸癌手術施設であり、2023年は180例の大腸癌関連手術を施行しました。そのうち17例は癌関連緊急手術（oncologic emergency）で、救急救命センターとして緊急治療にも対応しています。患者様の負担を考慮し腹腔鏡下手術、経肛門手術など低侵襲化を進めつつ、ロボット手術など先進的な治療にも取り組んでいます。2023年腹腔鏡下手術は137例で（ロボット手術29例）、待機手術では約90%を占めます。2019年4月に導入したロボット支援下手術（da Vinci）は累積手術症例数が120例を超え、手術施行医に加えてプロクター（指導医）資格も有しています。また根治を目指し、進行度に応じて、手術・放射線療法・化学療法を組み合わせた集学的治療を多職種で行っています。直腸癌では、NOM（non operative management）という手術を行わずに治療を目指す先進治療にも取り組みを始めています。これまで同様機能温存、肛門温存を目指していますが、人工肛門となった患者さんに対しても皮膚・排泄ケア特定認定看護師と協力して十分なケアに努めています。大腸癌手術の平均入院期間は約10日、縫合不全発生率5%（結腸0%、直腸5%）と治療成績は良好であり、更なる手術の安全性と質の向上に取り組んでいます。ご紹介頂いた患者さんが安心してがん治療を受けられるよう、医療連携をさらに発展させていきたいと考えています。



肝胆膵領域

肝胆膵外科部長 | 木原 康宏 きはら やすひろ

肝胆膵疾患の低侵襲手術、術前後の補助化学療法に積極的に取り組んでいます

当院は肝胆膵外科学会修練施設Bの認定を受けており、年間50例の学会認定の高難度手術を施行しています。2023年の主な手術件数は、肝切除27例、膵切除48例でありました。腹腔鏡下やロボット支援下などの低侵襲手術にも積極的に取り組み、年々増加傾向です。2023年9月からロボット支援下膵体尾部切除術を開始し、現在15例を経験し安全に導入できております。2024年度からロボット支援下肝切除も開始しました。

現在は切除可能な膵臓がんの治療で術前化学療法が標準治療となり、院内でも消化器内科や腫瘍内科と連携し、術前治療から手術、術後治療を行う流れが定型化しています。肝臓がんでは肝機能等に応じて手術（RFAを含む）、放射線治療（放射線治療科）、血管内治療（放射線科）、化学療法（消化器内科）などの治療を行っています。胆道癌に対してもTS-1の術後補助療法が標準治療となり、再発リスクの高い患者さんに導入しております。肝胆膵領域の疾患は難治であることが多く、また手術は複雑で侵襲も大きいので、他の診療科の協力を得ながら根治性と安全性の高い医療の提供を目指しています。



腎移植

移植外科部長 | 山永 成美 やまなが しげよし

きめ細やかなフォローアップで安心安全な腎移植を

35年以上にわたり、腎臓内科、泌尿器科、小児科と連携しながら、これまでに421名の方々に腎移植を行ってまいりました。年間の症例数は20-30例で、国内でもハイボリュームセンターとなっています。昨年の腎移植は29例（献腎6例）でした。近年ハイリスク症例が増加していますが、昨年の拒絶反応発生率は3.4%、2015年以降の生体腎186名の5年生着率は95.9%と、全国平均と比較し良好な成績をおさめています。より長期の生着が得られるよう、家族構成や社会背景にも配慮し、きめ細やかなフォローアップを行っています。

また、コロナ禍でも安心安全な腎移植を行うため、日本移植学会の指針に則り術前・術後の感染対策にも注力しています。さらに、移植患者さんとのコミュニケーションアプリ「カカリンク」の開発協力も行い、アプリを利用して患者さんにお知らせを配信し、不安の軽減に努めています。



胆嚢・ヘルニア手術について

第一外科 医師 | 伊橋 卓文 いはしたかふみ

当院での胆嚢、ヘルニア手術についてご紹介します

▶**胆嚢摘出術**…胆嚢結石症や胆嚢ポリープ、膵筋腫症などに対する待機的な胆嚢摘出術および急性胆嚢炎に対する急性期治療としての胆嚢摘出術が中心になります。2023年度の手術件数は胆嚢摘出術159例、うち急性胆嚢炎などの緊急手術が42例を占めています。胆嚢、ヘルニアともに待期手術ではご紹介いただいた初診時から2-3ヶ月の手術待機となるため、患者さんと相談の上で提携病院にご紹介させて頂くこともあります。手術は予定、緊急手術共に90%以上の症例で腹腔鏡下に胆嚢摘出術を行っており、入院期間は通常4-5日ほどになります。

▶**ヘルニア手術**…当院では2023年度に鼠径部のヘルニア手術を71例施行し、救急救命センターとしての特性から嵌頓症例など緊急手術が必要な症例にも幅広く対応しています。鼠径ヘルニアではTAPP（Trans-Abdominal PrePeritoneal repair）法などのメッシュを用いた鏡視下修復術を中心にしながら、症例に応じて鼠径部アプローチでの修復法も行っています。予定手術症例での入院期間は通常3-4日です。また鼠径部ヘルニア以外にも腹壁瘢痕ヘルニアや臍ヘルニアなどの手術加療にも常時対応しています。

